市誕生20年から将来を見据えて

令和8年第3回定例会
9/1 ▼ 9/29

令和8年第3回定例会では、令和8年度一般会計補正予算、令和7年度一般会計決算など各会計決算、市情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例の一部を改正する条例、市立子育て支援センター条例の一部を改正する条例、市長の給料の減額に関する条例などが市議会で慎重に審議され、市長提出議案29件全てが可決されました。











令和7年度一般会計決算

市税収入は増額

問 市税収入の状況と主な増収要因は。

答 市税全体では、現年課税分調定額として、約13億2600万円の増額となった。個人市民税は約8億7700万円の増額となった。これは、生産年齢人口の増加に伴う納税義務者の増加や、賃上げ等の影響による給与所得者の収入増加によるものである。

法人市民税は、約8千万円の増額となった。医療・福祉・情報通信業で減額があったものの、建設業やサービス業において大手企業の業績が好調であったことによるものである。

固定資産税は、約3億900万円の増額となった。これは、住宅や大規模倉庫の新築等による増加と企業の設備投資額が減価償却分を上回ったことによるものである。都市計画税は、約5400万円の増額であった。これは、固定資産税と同様に、家屋の新築等に伴う増額によるものである。

問 財政健全性の指標の動きと評価は。

答 令和7年度決算の経常収支比率は98・3%となり、令和6年度と比較して1・2ポイント減少した。人件費や物件費等の経常経費が増加したものの、経常収入の増額が上回ったためである。

将来負担比率は、マイナスを維持しており、充当可能な財源が将来負担額を上回っている。

市誕生20周年記念事業

問 事業の実施結果と効果は。

答 市主催事業は37事業を実施し、約2万4千人が参加した。

連携事業は27事業を実施し、約28万人が参加した。推進体制は、公募市民による市民企画会議や各団体代表による実行委員会が設置され、企画・広報等の検討、キャッチフレーズやシンボルマークの選定等が進められた。

市民企画会議からの提案事業では、会議メンバーのほか、地域の音楽家・包括連携協定締結大学・行政等が協働で準備や当日の運営や広報活動などが行われた。

結成された市民合唱団は公演後も継続して活動を行っており、人と人とのつながりが育まれた。

ふるさと納税型クラウドファンディングとして、みんなで第九を歌う、ふじみ野市産のお酒の製造、子どもたちへの記念給食提供の3プロジェクトが実施され、幅広い主体・市民の参画を得た。

効果としては、市民と行政等が一体となって事業を推進した結果、推進方針に掲げられた市への愛着の醸成、市民・行政等の一体感の醸成、まちづくりの機運醸成が図られた。今後の協働のまちづくりや地域力の向上へとつなげていきたい。

情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例の一部改正

行政手続のオンライン化

問 現状と条例改正の狙いは。

答 現状としては、行政手続の全1282件の内、オンライン化対応は118件にとどまっている。

そのため、条例を改正し、対象根拠を条例・規則から告示・要綱等を含む規定全般へ拡大することにより、手数料等の電子納付を含めたオンライン手続の拡充と業務効率化を推進する。

◆議案に対する質疑

青藍会 板倉 篤 議員
チームふじみ野 鈴木啓太郎 議員
公明党 鈴木 美恵 議員
日本共産党 塚越 洋一 議員
会派外の議員 民部 佳代 議員

令和7年度 一般会計 決算の特徴

※万円未満四捨五入

歳入 …増減した主なもの

市民税
令和7年度 91億4,262万円
対前年度比 9億5,212万円

固定資産税
令和7年度 75億3,981万円
対前年度比 3億751万円

国庫支出金
令和7年度 104億3,953万円
対前年度比 7億3,400万円

市債
令和7年度 44億340万円
対前年度比 22億1,585万円

歳入 決算総額 554億4,264万円
前年度対比 11.3%増（56億2,934万円）

歳入歳出差引額 28億6,335万円

歳出 決算総額 525億7,929万円
前年度対比 11.6%増（54億5,619万円）

実質収支額 22億2,926万円
翌年度へ繰り越すべき財源 6億3,409万円

歳出 …増減した主なもの

人件費
令和7年度 64億6,083万円
対前年度比 3億2,024万円

扶助費
令和7年度 153億5,905万円
対前年度比 8億1,189万円

公債費
令和7年度 43億9,034万円
対前年度比 1億4,539万円

普通建設事業費
令和7年度 75億8,574万円
対前年度比 29億1,193万円

※端数処理の結果、数値が一致しない部分があります。